

新サービス

女性の共感引き出すリアルな収納提案

安心計画×収納計画 VRで将来の生活具現化し暮らしやすさ追求

安心計画（福岡市）と収納計画（東京都目黒区）が提供する収納提案サービス『Space（スペース）』が、2月から運用を本格化させる。将来の暮らしをリアルに体験できるITツール（VR）と、実際のプランに生活用品を落とし込みながら収納提案手法を学ぶ実践プログラムなどを提供し、工務店が顧客とより実生活に近いイメージを共有できるようになる地盤をつくることで、「長く住んでも暮らしにくさを感じない家づくり」の普及を目指す。

ITツールは、安心計画が提供する3次元CADプレゼンテーションソフト「ウォークインホーム・プラス」をベースに、新たにVRシミュレーション機能を搭載。実際の住宅プランを反映させたVRデータに、一般家庭にある生活用品を再現した「収納マスター200アイテム」データ集や、月に1度全12回配信される「すぐ使える収納プラン」データを取り込むことで、顧客に「10年後の片付かない暮らし・片付く暮らし」のビフォーアフターをリアルに体験してもらえようになる。

中でも注目なのが、収納計画のノウハウを結集した“収納勝手”を突き詰めた生活用品データの数々だ。例えば「ティッシュ」は、1箱単体ではなく、買った時の5箱のまま収納することを想定し重なったままの状態。「ひな人形」は、飾っている時の状態ではなく、箱に収納してある状態のデータで用意されている。これらを取り入れたVRを体験した女

性からは、自然と「うわ！リアル〜！」と感嘆と共感の声が上がるという。

VRプランデータごとにURLを発行できるため、打ち合わせ時に顧客に体験してもらうことはもちろん、スマートフォンに装着するVRゴーグルさえあれば自宅に帰ってから家族で体験してもらうことも可能だ。

気の利いた収納提案を家づくりの当たり前に

収納のノウハウを学ぶ5時間の実践プログラム内では、開発者の1人であり、年間800件以上の住空間収納プロデュースを手掛ける平岡さなえさん（収納計画・代表取締役）自ら講師として登壇。自社図面プランに「30代で家を新築した家族の10年後の暮らし」を想定した生活用品を落とし込んでいくワークショップを実施する。平岡さんは「年齢を重ねるごとに物は増えていくのが自然。家を建ててから“片付けのプロ”に依頼するのではなく、まず家を建てる



VR体験時の様子。画面上のポイントに視点を合わせることで、「片付く暮らし」「片付かない暮らし」のビフォーアフターを切り替えられる



段階で適切な収納量や動線を“家づくりのプロ”が提案できるようになることが、5年ですぐに家が汚くなる現状を改善する手立て」と話す。

もう1人の開発者である宮本優さん（安心計画・執行役員営業本部長）が目指す先は「収納提案が当たり前になる家づくり」。宮本さんは「モデルハウスのような“物が少なく美しい状態”ではなく、“物が多く散らかっている状態”も見せることが信頼を得るコツ」とし、「特に女性は“ビジュアルで見せること”が重要。このツールを通じて、営業担当者と顧客の間で交わされる会話がよりリアルなものへと変わり、家事や育児などの経験がない若手や男性でも質の高いプレゼンテーショ

ンができるようになれば」と期待する。

本サービスの初期費用は実践プログラム参加費（1社2人まで）を含む15万円。保守費用は月額1万円。オンライン上で30分間収納プランナーに直接相談できるオプションは月額2万円で付けられる（月3件まで／予約制）。価格は全て税別。問い合わせは安心計画（TEL：092-475-1751）まで。



収納計画の平岡さなえ社長（左）、安心計画の宮本優営業本部長



“リアルな暮らし”を再現できる生活用品データ集「収納マスター200アイテム」